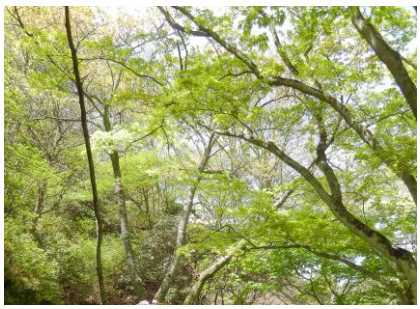
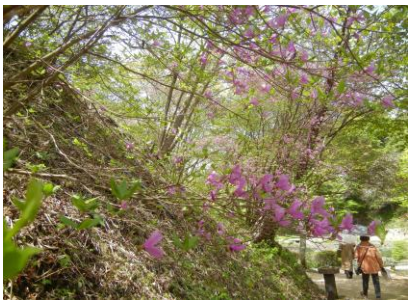
【2016年5月　From Kobe 】

新緑の五月　緑は気持ちをゆったりとしてくれる
野も山も里も草木燃え　輝きの一瞬戸外へ出て　元気に

1. 緑色にはどれほど種類があるのだろうか　　知らなかった緑色にびっくり
   新緑・芽吹き　毎日眺める山の緑のグラデーション　この「緑色」をどう呼べばいいのか
2. 神戸　三宮・元町「高架下」商店街 が　高架の耐震補強で存続の危機に!!
   またひとつ　普段着の街　昭和の匂いがする商店街がなくなりそう　　なんとも寂しい。

新緑の五月　野山も里も草木燃え　移り変わる春景色　最も美しい輝きの一瞬です
野山を楽しむのもよし、スポーツや街歩きもまた楽し。　戸外へ出て　元気に





但馬氷ノ山山麓では南西限の水芭蕉　六甲では新緑の森にツツジ・シャクナゲ　そしてヒマラヤの青いケシも

2016. 5. 8.　新開地　ジャズ　ストリートで

5. 8. は新開地ジャズストリート　5. 15. は神戸まつり　神戸の街に心地よいストリートジャズの音が響き、
多くの人が街に出て楽しむ。　こちらは久しぶりのジャズの音に気分爽快　缶ビール片手にストリートジャズのはしご。
うれしい春の行事が次々と。　真っ青な空に手を広げ　自然を胸いっぱい吸い込んで　今を元気にと。

でも　忘れてはいない熊本の大地震。　まだ余震が続く中での生活の厳しさを察しながら　早く余震が収まり
一日も早く　生活再建への見通しが立つよう祈っています。次々と起こる自然災害の怖さがまざまざと。

「自分の身は自分で守る」と意識を高めねばと思うのですが、自分にいったい何ができるのだろうか…・
アメリカ・フィリピン　そして北朝鮮と　強権をもつ強いリーダー志向がますます広がりそうですが、
自分がその輪に入れる保証もなく　今の世相を考えると　年寄りは切れ捨てられるだろうなぁと。
災害一つとっても　お互いがスクラム組める社会に　平和はそんな礎。　この方向に自分はかけたいと。
まず　健康に感謝と思いつつ、ますます厳しくなる世相の中で
輝く自然の英気をもらいつつ　がんばらねばと　　2016.5.10.　　Mutsu Nakanishi

1.　緑色にはどれほど種類があるのだろうか　　知らなかった緑色にびっくり

新緑・芽吹き　毎日眺める山の緑のグラデーション　この「緑色」をどう呼べばいいのか

「芽吹き・新緑」とひとことで言ってしまうのですが、日に日に変化してゆく４月・５月の山肌の緑の色の変化の表現。
自分の言葉の少なさになすすべもなし。あの芽吹きの山のグラデーションの色表現ができない。
開き直って「緑色にはどれほどの数の名前がついた色があるのだろうか??」とインターネット検索で調べてみました。
なんともまあ　暇人だといわれそうですが・・・・・
インターネットでちょっと調べただけでも　右記の通り。
考えてみれば　PC で色を選択する場合を考えれば 色は
デジタルの世の中　絶対値のカラーコード　【R 値　G 値
B 値】で　16 進数　10 進数で表すことで、色を絶対値
で統一的　に管理されている。

W3C標準 基本16色			10進数 例: rgb(255,0,0)		
カラー名	16進数	短縮系	R値	G値	B値
black	#000000	#000	0	0	0

このカラーコードで表すそれぞれの色ではないが、日本の
伝統色　現代の系統色それぞれには　古くから名前がつい
ている。　ちょっと調べた右表だけでもこれだけ多くつい
ている。　昔から　すごい形で色が管理されてきたのだ。
芽吹きの色合いもちゃんと名前の付いた色で表現できるのだと。
また、自分が緑色に持っているイメージとはずいぶん違色も緑色なんだとびっくり。　私にはお手上げ。　やっぱりせいぜい
緑　薄緑　黄緑　青緑　新緑　芽吹き　そして　海の・・・・・程度でしか表現できず。　洋名も　マラカイトグリーン程度
しかしらないなあ・・・・と。

≪調べていて　見つけた緑色の名前に　興味を持って≫

◎　青丹　あおに

添付した図表には「青丹」の名前はないのですが、『万葉集』にも「青丹よし 寧楽ならの京師みやこ・・・・・・・」はと詠われた奈良にかかる枕詞「青丹よしの『青丹』」は後ろに「丹」があるので、朱系統の色かと思っていましたが、間違いだった。
青丹（あおに）とは、昔、顔料や化粧料の黛に使われた青粘土のような**暗く鈍い黄緑色のこと。**青は緑のこと。丹は土を意味し、緑みのある土の色を指す。もともとは青土とかいて「あおに」と読んでいたと。青丹は、顔料となる岩緑青（いわろくしょう）を表わす古名であり、奈良が産地として有名だそうだ。

◎　若草色

奈良の若草山そして私の住む住宅地も「若草」。 何とはなしに山の芽吹きの時の薄緑とイメージするが、正確には知らない。
若草色は正確には**春の野山に見られる草木の若葉の色を指す**という。万葉の昔から用いられた色で、明るくて鮮やかな黄緑系の色。感覚的には萌黄と同じですが、色名の上では、萌黄よりやや濃い黄緑色とされている。
当たらずとも遠からずでしたが、むつかしい。

◎　松葉　柳葉　裏葉　青竹　老竹　よく聞く「鶯色」

うぐいすの色だとはわかっているが、はてどう作るのか?　　それに　**信号の色も「青」か「緑」か・・・・**

緑色はかつて　青色の系統だったというから、その混用なのでしょうか?

日本の歴史における緑色は、古くは「青」のカテゴリに属しているものが多く、「青白橡（あおしろつるばみ）」や、「青丹（あおに）」「青竹色（あおたけいろ）」など色の名前にも「青」の文字が垣間見れるという。

◎　もう一つ　緑色系統に鉄色というのがある　　ほんとかなぁとびっくりして　チェックしてみました。

鉄色と書いて　鉄色・くろがね　と読む。　黒金のことだという。

「ごく暗い青緑」。一般に、濃い緑色をさし、深緑よりも濃い。光沢が出るほど磨かれた色ではなく、「黒金くろがね」と呼ばれるような黒っぽい状態の鉄の色を表す。染色の色に用いられるが、顔料の色とする説もある。

今まで　鉄の色を緑系統などと思ったことありませんが、日本の伝統色では　緑系統なのだとびっくりしました。

ふっと思いついて　頭に浮かんだことなども調べてみようと思い、ちょっと調べただけですが、びっくりしました。

色は奥が確かに深い。デジタル値で混合すれば　ブルンチョンと思っていましたが、びっくり。

そういえば、自動車のカラーも自分で調合はできぬ色。同じ系統でも各社それぞれ。　はげ落ちた色から車を割り出せると聞く。

まあ　私の緑のボキャブラリーの中にあるのは　若草色　鶯色　それに緑青　マラカイトグリーン程度かな。

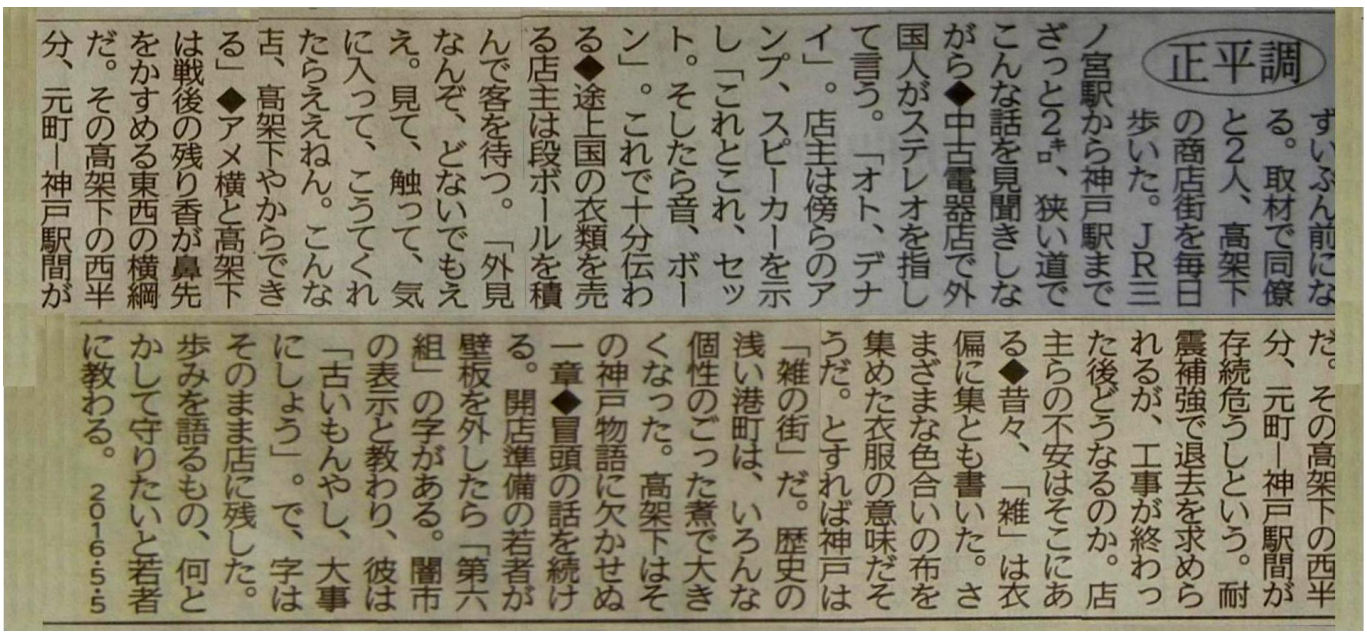
機会があれば「青」も検索してみたい。　「青」は「緑」よりもっと複雑だろう。

2.　神戸　三宮・元町「高架下」三宮商店街 ＆ モトコーが　高架の耐震補強で存続の危機に!!

またひとつ　普段着の街　昭和の匂いがする商店街がなくなりそう　　なんとも寂しい。

JR 三宮駅から神戸駅まで約２キロ　JR 高架下の商店街　通称「高架下」【1】

2016年５月５日の　神戸新聞朝刊１面コラム「正平調」に　神戸三宮・元町の「高架下」立ち退きの危機に「高架下」への強い愛着がにじみ出た下記のコラムが掲載された。



正平調

ずいぶん前になる。取材で同僚と2人、高架下の商店街を毎日歩いた。JR三ノ宮駅から神戸駅までざっと2キロ、狭い道でこんな話を見聞きしながら◆中古電器店で外国人がステレオを指して言う。「オト、デナイ」。店主は傍らのアンプ、スピーカーを示し「これとこれ、セット。そしたら音、ボーン」。これで十分伝わる◆途上国の衣類を売る店主は段ボールを積んで客を待つ。「外見なんぞ、どないでもええ。見て、触って、気に入って、こうてくれたらええねん。こんな古、高架下やからできる」◆アメ横と高架下は戦後の残り香が鼻先をかすめる東西の横綱だ。その高架下の西半分、元町―神戸駅間が存続危うしという。耐震補強で退去を求められるが、工事が終わった後どうなるのか。店主らの不安はそこにある◆昔々、「雑」は衣偏に集とも書いた。さまざまな色合いの布を集めた衣服の意味だそうだ。とすれば神戸は「雑の街」だ。歴史の浅い港町は、いろんな個性のごった煮で大きくなった。高架下はその神戸物語に欠かせぬ一章◆冒頭の話を続ける。開店準備の若者が壁板を外したら「第六組」の字がある。闇市の表示と教わり、彼は「古いもんやし、大事にしよう」。で、字はそのまま店に残した。歩みを語るもの、何とかして守りたいと若者に教わる。2016・5・5

2016. 5. 5.　神戸新聞朝刊１面コラム「正平調」より

JR 三宮駅から神戸駅まで約２キロ　JR 高架下の商店街　通称「高架下」【2】

神戸・阪神間では高齢者から若者まで知らぬものがない「高架下」。　タイガースや神戸大震災の話と同じく、「高架下」の話になるとひとつやふたつ　誰しもが　とっておきの話を持っていて、ワイワイガヤガヤ　誰もが寄ってくる。

JR 三宮駅から神戸駅まで東から西へ約 2 キロ　天井上の高架を JR の電車が走り、狭い道の両側に種々雑多な店がひしめき合って続くづ昭和の香りがする雑な街「高架下」。

三宮高架下「ピアザ Kobe」& 元町高架下「モトコー」の正式名はあるのですが、「モトコー」とは言うが「ピアザ Kobe」では通じない。みんな「高架下」で通じるそんな街。元町商店街が神戸の表の顔に対して　裏通り的存在である。

神戸三宮・元町高架下商店街
三ノ宮のシャレタ店から若者の店　そしてマニアックな店へ
若者から年寄りまで　世代を超えた多くの人が行きかう街

かつての闇市から発展した安いものが何でもそろう街から、若者が種々のアイデアグッズ・衣装・ファッションの店を並べた明るい最先端の一角があり、また、年寄りが幅をきかす暗い通りに　中古・レトロ・マニアックな店を出す不思議な区画まで　高級品から中古品　バッタ商品。そして占いからうまい店も。一本の高架下通りですが、中は複雑　不思議な魅力。店主とも顔をつきあわせてあれこれ。一度行けば　次からはもう友達の感覚になれる。
若者も年寄りもそれぞれがこの街歩きを楽しむ。地元では　気の合うもの同士　また、ひとりそっと出かける場所である。
それこそ　昭和レトロ・先端の若者の街など　映画の世界かテーマパークの中に迷い込んだ感覚。休日ともなれば　若者から高齢者まで　多くの人がゆきかう神戸や阪神間では誰もが知る商店街。そんな　誰もに愛された「高架下」。
上を電車が走る高架の耐震補強で立ち退きを迫られている。
街がよそ向きのきれいな顔にどんどんなってゆく一方。　そんな中で　ふらっと普段着で行ける街である。

神戸のホッとする空間が消えてゆくのがなんとも寂しい。なんとか　ならぬのかと・・・・・・。
5 月 8 日　新開地のジャズストリートへ出かけたら、あるストリート stage で　自作の歌「モトコーを歩こう」を歌うグループに聞いている人がみんな手拍子で答えて　盛り上がっていました。
みんな　『高架下は好きなんや』「高架下」残ってほしいなぁ・・・・と。
そんな思いも込めて、先日　新開地ジャズストリートで聞いた『モトコーを歩こう』のメロディーを添付

◎　2016.5.8.　新開地ジャズ　ストリート　ライブで聞いた『モトコーを歩こう』
http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/2016mutsu/fkobe1605motokowoaruko.mp3

2016.5.8.　Mutsu Nakanishi